



# のがわ水族館のこと

「のがわミニ水族館」を知っていますか？

それは、野川の生き物を水そうに入れた小さな水族館。

地域のイベントで見かけたことがある方も多いのではないでしょうか。

今回はそんな「のがわミニ水族館」について聞いてみました。

Q.1 どうして「のがわミニ水族館」をやっているの？

理由はひとつじゃありません。  
一緒に考えてみてほしいです。  
たとえば—  
・近くでよく観察できるから。  
・見ていると心がほっとするから。  
水そうの前で感じたことを、  
自分の言葉で話して  
みてください。



「のがわミニ水族館」について聞いてみたよ。

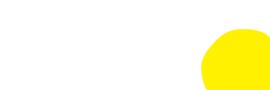
Q.2 生き物はどうやって集めているの？

サポーターズが野川で見つけて飼っている生き物が中心です。  
地域ならではの生き物の命も、大切にしたいと思っています。  
自分でつかまえた生き物を持ち寄って展示しています。  
卒業生もお手伝いをしてくれています。



Q.3 イラストや写真じゃなくて水そうを並べるわけは？

水そうの中は、生きて動く「ちいさな自然」です。  
魚が泳いだり、カニが動いたりする姿に、人が引きよせられるように集まっています。近くで見ると、色や形、動きがよくわかります。「これなに？」と話がはずむこともあります。  
つまり見にきてくれた人と会話しながら生き物に興味を持ってもらうことができるからです。



アドバイザーのいそべが第二種動物取扱業の申請・届出をしており、展示・飼育は適切な手続きのもとで行っています。

Q.4 水そうに生き物を「とじこめる」のは、かわいそうじゃない？

その気持ちはとても大切です。  
だからこそ、できるだけ生き物に合った環境を整える工夫をしています。  
野外では食物連鎖の中で食べられてしまうこともあります。希少種に気をつければ、私たちが捕獲して展示する生き物は自然界ではほんのわずかです。命の大切さを感じながら育てることで生き物が住みにくくなる環境破壊などの問題にも目を向け、自然を大切にする人が増えるきっかけになればと願っています。



Q.5 なぜ名前プレートを手作りするの？

名前プレートを作り、正しい名前・住んでいる場所・観察ポイントを自分で調べて書くうちに、「観察する力」が育ちます。調べたことをどう表現するかを考えることも、よい学びにつながるからです。



Q.6 これから、どんな水族館にしていきたいですか？

スタッフや子どもたちが自分で飼育した生き物を持ち寄り、来場者に説明できる場を増やしたいです。街のあちこちに「マチナカ水族館」が広がり、自然を好きになる人が増えていく—そんな未来を描いています。



Q.7 私たちにできることはありますか？

もちろんあります。  
観察・記録・名前プレートづくり・水そうの片づけなど、できることはたくさんあります。  
いのちを大切にしながら学ぶきっかけに、まずはココイケのそうじに来てみませんか？



みんなが「のがわミニ水族館」を見て、自然に関心をもってくれたらうれしいな。  
ココイケサポーターズに入って一緒に活動してみませんか？

